

資料 金融的・投機的利得の源泉についてのドイツでの議論（紹介）

ドイツのマルクス経済学の陣営の一部では、「経済の金融化」あるいは「金融化された資本主義」の立場から今回の世界金融危機を分析し、これに関連して、金融的・投機的利得の源泉についても議論している。この議論では、経済学者の **Rudolf Hickel**, **Joachim Bischoff** さらに、EU議会議員の **Sarah Wagenknecht**, などが重要な貢献をしている。

① **Rudolf Hickel, Eine Gewinnflut hat die Wirtschaft ertraenkt, Frankfurter Rundschau, 2008/10/24.**

「決定的な問題は、今日の金融市場の[実体経済に対する]支配を可能にしている資本が生まれてくる源泉は何かという問題である」

このように問題を提起して、著者は、金融市場の支配をもたらしている膨大な貨幣資本の蓄積の原因を、近年における労働分配率の低下を梃子とする社会的富の再配分、金融自由化が促進した企業部門における流動性の蓄積、産業分野における実物投資の停滞、などに求めている。

なお、**Hickel** のより立ち入った所説については、

Rudolf Hickel, Kapitalismus Heute: Blick in den Abgrund, (2008?)参照。

① **Karl Mai, Vom Ursprung, Wesen und Untergang der Spekulationsgewinne: ein Politökonomischer Diskussionsbeitrag, 2008/11/25.**

著者は、上記の **Hickel** の問題提起から出発しながら、異なった議論を展開している。

今回の金融危機は、「貨幣形態での過剰蓄積」がもたらした金融自由化の必然的な結果。貨幣形態の過剰蓄積は、外国に「資本輸出」されるか、国内の金融市場で投機的に運用される。貨幣形態での過剰蓄積が進行する現代経済のもとでは、物質的財貨やサービスを[生産する]実体経済から金融経済が相対的に遊離する。・・・実体経済と金融経済の関係は、金融市場での利得の発生という問題の考察において特別に重要である。

現在発生している投機的価値増殖や価値喪失の規模を、国内総生産に含まれる国民経済的価値生産の規模によって説明することは不可能であるように思われる。

証券取引所で成立する株式価格は、将来の利子と価格上昇から期待される利得に対する市場価格を反映している。取引所における株式の売買価格の差額から、株式所有者には擬制的利得（キャピタルゲイン）、あるいは擬制的損失（キャピタルロス）が発生する。これらの利得や損失は、株式が代表している現実資本の実際の利益からは独立に発生し、あるいは変動する。同様のことが、デリバティブ証券、ヘッジファンド、投資ファンド他についても妥当する。

投機的利得あるいは損失としてのキャピタルゲインやキャピタルロス、それらが経済の

実体面に影響するまでは、擬制資本の領域で変動する。Sarah Wagenknecht が、近著 *Wahnsinn und Methode: Finanzcrash und Weltwirtschaft, Das Neue Berlin 2008.* で述べたように、有価証券がもたらす莫大な投機的利得は、一部は実体経済が生み出す利潤や所得から発生するが、圧倒的部分は取引所での投機活動それ自体によって作り出される。彼女は、これを擬制的所得(*fictive Einkommen*)および虚の財産(*virtuelle Vermoegen*)と提示している。

証券価格のバブル的高騰にもとづいて、投機資本の大きな割合が経過的な鞘取り(??原語は *laufende Zwischengewinnen*)から発生する。その限りでは、それは「貨幣の魔法の山」(*Zauberberg des Geldes*、言うまでもなくトマス・マンの魔の山になぞらえている)から発生する。とは言え、投機資本の源泉が完全にこれだけだと考えるべきではない。

Joerg Huffschnid, *Jenseits der Spekulationskrise- Finanzmarktgetriebener Kpaitalismus und Perspektiven der Gegensteuerung*, 11/2007.

この論文で、著者は事実上「経済の金融化論」に立脚した資本主義論を展開している。ただし、金融的・投機的利得の源泉については、基本的に労働価値説に基づく説明を維持している。

なにがこのような金融セクターの拡大を引き起こしたのか。主原因は、最近30年間に生じた所得の再分配と年金制度の進行する民営化である。

低所得層から富裕層への所得[および資産]の再分配は、国民所得に対する賃金および俸給の割合である賃金率[労働分配率?]を明らかに低下させた。

増大する金融資産の重要な部分を管理し、増殖させるサービスを提供するために、銀行や保険会社とならんで競争する金融投資家が形成された。機関投資家と呼ばれるこれらの金融投資家は、2006年で世界の民間金融資産総額80兆ドルの4分の3に相当する62兆ドルを管理している。・・・莫大な資本の管理と意思決定の中枢は、かつての生産資本から金融投資家に移った。

金融市場主導の資本主義は、完全には実体経済から自立していない。依然としてすべての利潤の源泉は、最終的には人間労働による価値生産である。しかし、この究極の関係は、[価値生産からその分配までの]過程がますます多くの段階によって区切られ、ますます複雑化することによって、切断され、見えにくくなっている。

金融投資家にとっては、企業は、所有者(=株主)による所有者のためのプロジェクト以外の何者でもない。それ以外のことを考えることは間違った経営であり、株主利益を目指す経営に軌道修正されなければならない。